

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会（全体会） 第2回
議事要旨

1. 日時 平成20年4月25日（金）15:00～17:30
2. 場所 如水会館 如水コンファレンス
3. 出席者 杉戸委員長，有森委員，生坂委員，井部委員，生出委員，齋藤委員，
真田委員，柴田委員，関根委員，鳥飼委員，宝住委員，三浦委員，
村田委員，矢吹委員，吉山委員，和田委員，徳重委員，相澤委員，
吉岡委員，田中委員
4. 会議の概要
 - （1）委員紹介
 - （2）第1回全体会の会議録・議事要旨の確認
 - （3）第1回全体会以後の進捗状況の報告
 - ・これまでの実務委員会・作業部会での検討・作業の進捗状況について，主として語彙選定の手順の報告があり，質疑応答が行われた。
 - （4）「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の形式と提案例の検討
 - ・「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の形式，工夫の種類，提案例（寛解，MRSA，潰瘍，貧血，炎症，ホスピス）について，実務委員会で検討中の内容が示され，討議を行った。
 - （5）普及方法の検討
 - ・「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の普及方法の案が示され，討議を行った。同時にいくつかの普及方法が新たに提案された。
5. 会議での主な意見
 - ①第1回全体会以後の進捗状況の報告について
 - ・患者が正しく理解すべき大切な文書でありながら難解なものとして，新薬の治験の際の説明文書や同意書がある。提案に取り上げる語の選定母体であるコーパスに，これらの文書を加えることを検討してはどうか。

- ・病名は非専門家であっても自身で調べて理解できるものであり、「COPD」などの病名よりも、「潰瘍」と「糜爛」の違いなど類義の医療用語を取り上げる必要性の方が高いと思われる。

②「病院の言葉を分かりやすくする提案」（仮称）の形式と提案例について

- ・「寛解」「塞栓」などの難解な語については、なぜその語が医療現場で使われるようになったのかといった歴史的な研究も視野に入れたい。
- ・「寛解」は難治性ネフローゼの患者にとっては朗報であるので、提案例の再発の可能性を強調したような書きぶりは好ましくない。「寛解」は意味合いが専門分野によって異なることも考えられるので、表現を慎重に検討したい。
- ・提案を医療従事者向けに特化するならば、記述中の医学用語は正確に使用する方がよい。患者に向けることも視野に入れるならば、図などを使って視覚的に表現することなど、さらなる工夫が必要である。
- ・調査から得られた具体的な数値が提案の中に示してあると、提案がより興味深く説得力のあるものになる。
- ・取り上げる語数を絞っても良いので、問題の種類を医療従事者にきちんと理解してもらえるように努めたい。
- ・患者が説明を理解できない大きな要因に、病院に行くという非日常における患者の心理状態がある。分かりにくさの一因としての患者の心理的動揺を、委員会としてはどう考えればよいか。
- ・コミュニケーションに関する内容はコラムで扱うとしているが、「心理的なものが理解に影響する」ということは、コラムではなく提案の冒頭を書くべきことではないか。
- ・医師と患者とでは医療用語に関する認識に大きな開きがあるので、医師調査だけでなく患者調査を行うとよいのではないか。患者調査の方法としては、疾患別の患者会での聞き取り調査が有効と考えられる。
- ・現在の日本の医療現場における外国人患者の増加と医療通訳者の不足の現状を踏ま

え，提案は非日本語母語話者に対する配慮も念頭におきたい。

③提案の普及方法について

- ・患者会の会報に提案について掲載してもらうことは十分可能であろう。その他，患者への普及方法としては，病院の患者図書室に置いて閲覧してもらうことなどが考えられる。
- ・マスコミによる普及の観点から，マスコミが記事にしやすいような事柄を提案に盛り込みたい。

以上